

## 牛肉の一片に宇宙を見た 不思議な不思議な物語

「物はなぜ牛へんのか? 国語学者もモーわからんと頭をかかえていらつしやる」とシヤレのめしておいた。じつをいうと、いまでも決定的なこととはわからないのだが、中間報告というか、その後わかったところでは「物」——という字は牛を殺して神に捧げること、その捧げものの「肉片」を意味するのだそうである。そういわれれば「物」のつくりである「勿」はブツと発音し、否定を意味する文字である。したがって、牛へんに否定の文字は牛を殺すこと、それも「神に捧げものをするため」の意味になることはなんとか納得がいく。

で、ついでに「物」という字にどんな意味があるかを調べてみたら、それこそシヤレではないが「もの」すごい。以下、辞書の記するところを紹介すると——

- ① 天地間の有形無形のいっさい ② 品物、物品 ③ 人、世間の人々 ④ 自分以外のもの。外物 ⑤ こと、事柄 ⑥ 物質 ⑦ 所有物 ⑧ ことば ⑨ 争論(もの別れ) ⑩ たぐい(類) ⑪ 色。畜類の毛色 ⑫ 飲食物(ものを食べる) ⑬ 費用(もの入り) ⑭ なんとなく(もの静か) ⑮ ほんもの(ものになる) ⑯ かず(数) とある。



このほかにも「みる」「調べてみる」「ぐらべる」「しるし」といった意味もあるそうだから、なんとも「ものものしい」。

もつとも「物」の意味の最初に「天地の有形無形のいっさい」を意味することわつてあるから、物にどんなに多くの意味を持たされても異議の申し立てようはないわけである。

が、「天地間の有形無形のいっさい」とあるからには、物に対する「心」も当然「物」にふくまれるとみななければならぬ。

となると、何やら例の「唯物論」と似たようなことになってくるし、神に捧げるための肉片が森羅万象、人間の精神作用まで意味するとなると、たかが牛肉などといって気易く口にできないような気分にもなってくるから妙である。